

**「日本語能力の判定基準」等に関するワーキンググループの進め方について****○経 緯**

平成 25 年に、日本語教育小委員会に設置された「論点整理に関するワーキンググループ」が取りまとめた「日本語教育の推進に向けた基本的な考え方と論点の整理について(報告)」において、具体的な施策の方向性や日本語教育の推進方策を議論していく際の検討材料として論点が 11 に整理された。論点 3 として「日本語教育の標準と日本語能力の判定基準について」が示された。このうち「日本語教育の標準」については、第 19 期日本語教育小委員会において検討を行い、「日本語教育の参照枠」の一次報告案が作成されている。

**○現状と課題**

外国人の日本語能力を判定する方法として国内外で様々な試験が実施され、個々の指標に基づき、レベルや判定基準等が設定されているが、学習・教育内容の多様化が進む中、各試験が判定する日本語能力についての共通の指標を整備し、利用できるようにすることが必要となっている。

**○目 的**

国内外の日本語学習者が日本語の習得段階に応じて求められる日本語教育の内容及び方法を明らかにし、外国人が適切な日本語教育を受けられ、評価できるようにするため、「日本語教育の参照枠」の考え方にに基づき、外国人の日本語能力の判定基準及び評価の在り方について検討を行い、令和 2 年度末に二次報告を取りまとめる。

**○方 法**

- ・ 日本語教育小委員会での審議と並行して、小委員会の下にワーキンググループを設置し、審議のための検討及び資料作成を行う。
- ・ 令和元年度に示された「日本語教育の参照枠」一次報告案に続く二次報告として作成する。

**○検討事項(案)**

- (1) 開発した Can-do の検証方法に関するガイドラインの策定について
- (2) 「日本語教育の参照枠」における評価の考え方について
- (3) 既存の日本語の試験と「日本語教育の参照枠」との関連付け方法について
- (4) 社会で活用される日本語能力の水準を判定する試験に求められる要素について

## 能力記述文と尺度の検証方法に関するガイドライン策定に向けた検討事項（案）

### 1. 現状と課題

- 令和元年度に「日本語教育の参照枠」一次報告(案)が示された。今後、様々な機関等で領域別の能力記述(以下、Can-do という。)が行われることが予想される。
- 作成される能力記述が CEFR can-do のレベル尺度に照らして一定の水準を保つために、検証方法に関するガイドラインを示す必要がある。
- 国内の英語試験における先行事例としては、英検、GTEC があり、CEFR(2001)及び Relating Language Examinations to the 'Common European Framework of Reference for Languages: Learning, Teaching, Assessment' (CEFR). A Manual(以下、マニュアルという。)を参照している。

### 2. CEFR(2001)及びマニュアルで示されている検証の手法

I 直感的手法 :経験則による検証	①専門家(エキスパート) ②委員会 ③経験主義
II 質的調査法 :小規模ワークショップ による検証	④基本概念:定式表現(スケール設計上の重要概念の形成) ⑤基本概念:言語行動(重要概念とパフォーマンスの照合) ⑥基本特性(主要特性) ⑦二元決定法(Yes/Noによるレベル決定過程の作成) ⑧比較判定法(ペア比較による判断) ⑨仕分け作業(並べ替えタスク)
III 量的調査法 :統計的手法を 用いた検証	⑩弁別分析(判別分析) ⑪多元尺度(多次元尺度法) ⑫項目応答理論または「潜在特性」分析

### 3. ガイドライン策定にあたっての検討事項

- ガイドラインには以下の項目について示す必要がある。
  - (1) 検証の目的と必要性
  - (2) 検証方法と手順
    - ・ I 直感的手法
    - ・ II 質的調査法
    - ・ III 量的調査法
  - (3) 収集するデータの数等に関すること
  - (4) 参考文献

## 「日本語教育の参照枠」における評価の考え方について（案）

### 1. 「日本語教育の参照枠」における言語教育観に基づく評価の理念

- (1) 日本語学習者を社会的存在と捉える
- (2) 言語を使って「できること」に注目する
- (3) 多様な日本語使用を尊重する

### 2. 「日本語教育の参照枠」における言語能力観と評価

- (1) “evaluation”と“assessment”
- (2) なにを測るのか（日本語能力とは何か）
  - ・ 一般的能力とコミュニケーション言語活動，コミュニケーション言語能力，方略
- (3) どう測るのか（多様な評価の在り方）

### 3. 評価の「妥当性」「信頼性」「実行可能性」

### 4. 評価のためのリソースとしての「日本語教育の参照枠」

- 日本語能力の熟達度評価に「日本語教育の参照枠」を用いるメリット
  - ・ 試験内容を決める際に活用できる
  - ・ 学習対象の到達度の基準（レベル）を決める際に活用できる
  - ・ 異なるテスト間の比較が可能になる
  - ・ 学習者が自身で言語能力の目標設定や評価ができるようになる
  - ・ 国や機関を超えた共通の日本語能力評価ツールとして活用できる

### 5. 評価の種類と「日本語教育の参照枠」

### 6. 日本語の大規模試験と「日本語教育の参照枠」とを関連付ける方法

### 7. 社会で活用される日本語能力の水準を判定する大規模試験に求められる要素について